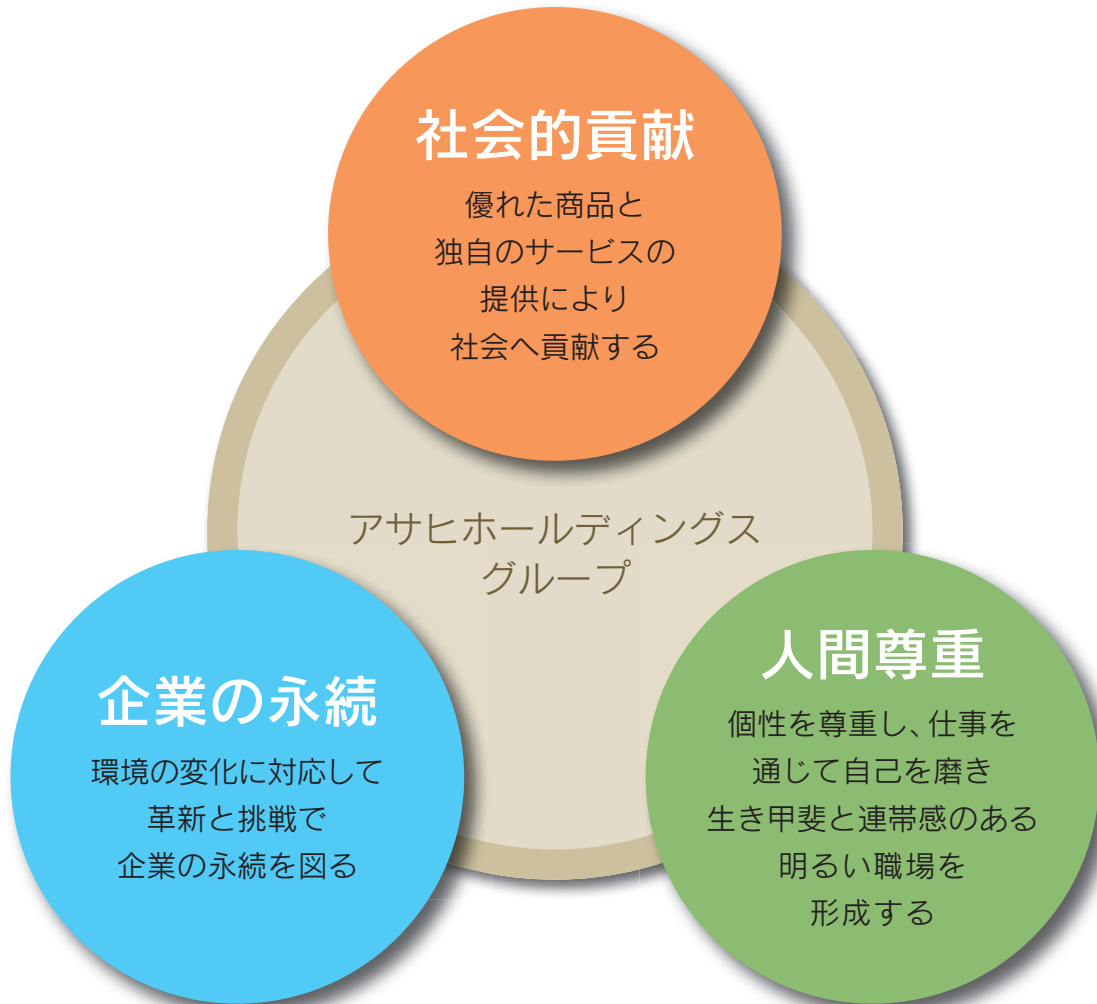


Company Overview

アサヒホールディングスグループは、
お客様や社会からの要請に対して
誠実にお応えし、
良識ある企業集団としての
責任を果たしてまいります。

経営理念



グループスローガン

「V11～変革と創造を進めよう～」

アサヒホールディングス設立の初年度にあたり、これからの3年間で「新たな創業期」と位置付けて、グループ全員が一丸となり、次代に向けた「変革と創造」に取り組みます。

大変厳しい経済環境のもとでのスタートとなりますが、全力でこの難局に立ち向かうことで、V字型の業績回復を達成いたします。



TOP MESSAGE

合言葉は『この手で守る自然と資源』
持続可能な社会の実現に向けて
新たな価値の創造に取り組みます。

地球環境は次世代からの預かりもの

会社は「経営理念」のなかで、その目指すべき価値を明確に定義しております。その筆頭に「社会的貢献」という言葉を据えており、優れた商品と独自のサービスの提供により“社会へ貢献する”という決意を表しております。

1952年の創業以来、半世紀を超えて培ってきた技術力を基盤とし、各種のリサイクルや廃棄物処理という事業活動を通して、地球環境保全とかがわってまいりました。経営理念は今日の私たちの事業活動にも脈々と受け継がれております。温暖化をはじめとする地球環境の問題、また貧困や格差といったかたちで現れる経済社会の問題は世界的に深刻さを増しております。持続可能で安定した人類社会の発展なしに企業活動は存在し得ませんので、私たちはこれからも経営理念のなかに新たな時代の使命を見だし、社会の持続に役立つ活動を続けてまいります。

経営新体制のスタート

2009年4月1日にグループ全体の戦略機能の強化およびコーポレート・ガバナンスの向上などを目的として、純粋持株会社「アサヒホールディングス株式会社」を設立しました。アサヒホールディングスの傘下、「金属リサイクル事業」に従事する「アサヒブリテック株式会社」と「環境保全事業」に従事する「ジャパンウエイスト株式会社」が新たな発展に向けて活動を開始します。このような体制刷新を契機とし、コンプライアンスなどに関して適切な経営監視を維持しながら、各事業主体が自立性と専門性を高め、顧客サービスの一層の充実を図ってまいります。

第5次中期経営計画

アサヒホールディングスグループとして本年、第5次中期経営計画「V11～変革と創造を進めよう～」を策定しました。「V11」というのは、2011年度に向け、全員一丸となってV字型の業績回復を達成しようという宣誓です。大変厳しい経済情勢のなかでの船出ではありますが、2012年3月期に売上高1,000億円、営業利益70億円を達成することを目標に、重点事業への経営資源集中と、より効率的な企業運営によって、成長性と収益性を高めます。

CSR活動を通じた発展

コーポレート・ガバナンス、内部統制につきましては、従来から地道な取り組みを進めてまいりました。法令や倫理綱領の遵守の徹底はもとより、グループ全体のさまざまなリスクの把握と諸活動のモニタリングを通して、速やかに適切なアクションをとり、実効性の高いCSR活動に努めております。また当社はお取引先、地域社会の皆様、株主・投資家の皆様、そしてグループの全社員とのコミュニケーションを重視し、これを当社CSRの基礎としております。

これからもすべてのステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを充実させ、事業の持続的発展を目指すと同時に、透明性の高い経営を追求し、社会と市場から信頼される企業グループでありたいと考えております。

代表取締役社長

寺山満春

コーポレート・ガバナンス

持株会社制への移行を契機に、より強固なグループガバナンスの構築とリスクマネジメントの推進を目指します。

コーポレート・ガバナンスに関する考え方

持株会社であるアサヒホールディングスは、グループの一元的なガバナンスの中心にあつて、全グループの戦略機能を担い、リスク管理と対外的な説明責任を負うスリムな組織体として業務を遂行しています。

事業会社であるアサヒプリテック株式会社とジャパンウェイト株式会社は、分野ごとの特性に応じた迅速な意思決定と最適な業務執行体制により事業を推進し、競争力の強化と収益力の拡大を図っています。各社がその責務を果たすことにより、すべてのステークホルダーに対する企業価値の最大化に努めています。

●取締役会

取締役で構成され、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定するとともに、執行役員を主体とした業務執行の監督を厳正に行っています。

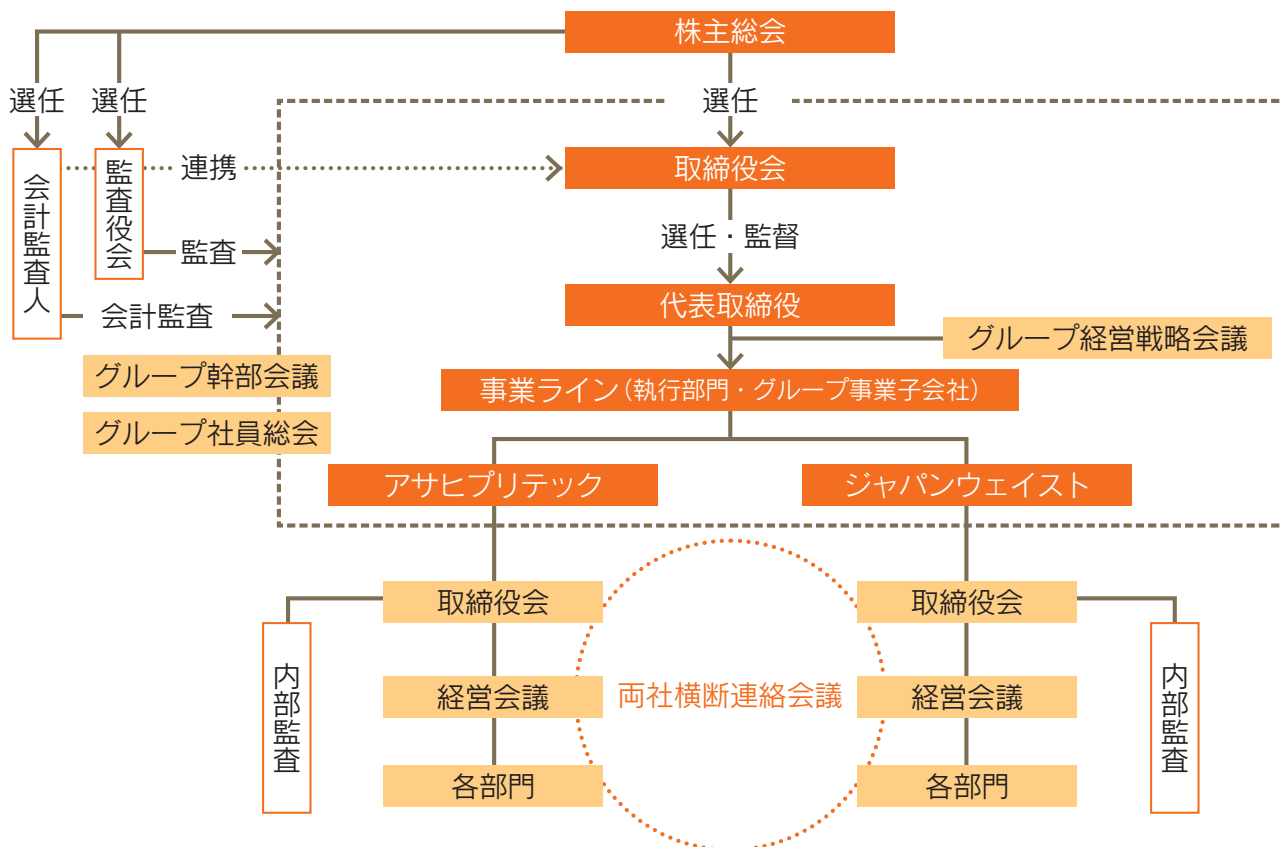
●経営戦略会議

グループ取締役と関係部門長で構成され、新規事業や投融資などに関して迅速かつ機動的に審議・決定を行います。取締役会専決事項についても、特に重要なものについては、事前に経営戦略会議において審議し、戦略的意思決定にかかわる審議の充実を図っています。

●監査役会

監査役で構成され、取締役会への出席、営業所・工場への往査、会計監査人からの会計監査結果報告会などを実施しています。

グループ・ガバナンス体制



会社法に基づく 内部統制対応システムの整備

取締役会規則、監査役会規則、執行役員規程、内部監査規程、内部統制規程などを制定し、また、社員の相談窓口であるホットラインの設置などにより、グループ内部統制の整備・充実を図っています。

リスクマネジメントについて

アサヒホールディングス自身が、グループ全体の「リスクマネジメント機能」を保有しています。可能な限りリスクを事前に予知し、未然防止を図るとともに、危機に発展した場合の経済的・社会的損失を最小限とするために、事業活動上のリスク把握、評価および対策を実施しています。こうしたリスクマネジメントの適切な運用により社会的責任を果たし、ステークホルダーからの信頼が得られるよう努めています。

コンプライアンスについて

廃棄物関連の事業は行政の許認可に基づいており、常に高い遵法意識と行動が求められています。コンプライアンスの規程やマニュアルを整備し、また、全社員に対し社員教育の場や社員相互のコミュニケーションの場で遵法意識を浸透させ徹底させる取り組みを行っています。



個人情報保護教育

社員の判断基準 「グループ倫理綱領」

役員および社員の意思決定や行動に際して、法令遵守の精神と倫理観を持って行動することを求めています。そのために、日常業務場面に即した具体的な内容を例示し、役員および社員は倫理綱領の理解と実践に努めています。

日本版SOX法への対応

グループ全体で日本版SOX法に対応したマネジメント体制を確立しています。規程、マニュアルに沿って業務を遂行し、内部統制は有効であるとの評価をしています。

法令倫理・公益に 反する事項についての 社内・社外相談窓口を設置

社内で違法または不当な行為などの問題を早期に発見し解決するために、社外の法律事務所を窓口とする「アサヒホットライン(内部通報制度)」を設置するほか、社内相談窓口を設け匿名での申告も受け付けています。通報案件に関しては、申告者や被申告者のプライバシー保護について配慮し、調査や是正措置を講じる体制を整備しています。同相談窓口の設置については、社内イントラネットのトップ画面に表示し、全社員に周知しています。

グループ概要

貴金属リサイクルと環境保全事業を中心に事業活動を展開し、地球環境の保全に貢献しています。

アサヒホールディングス株式会社

●会社概要

創 業：1952年7月
 設 立：2009年4月
 資本金：4,480百万円
 代表者：寺山 満春
 本 社：〒650-0001
 兵庫県神戸市中央区加納町4-4-17
 ニッセイ三宮ビル16F
 〒100-0005
 東京都千代田区丸の内1-7-12
 サピアタワー 11F



神戸本社



東京本社

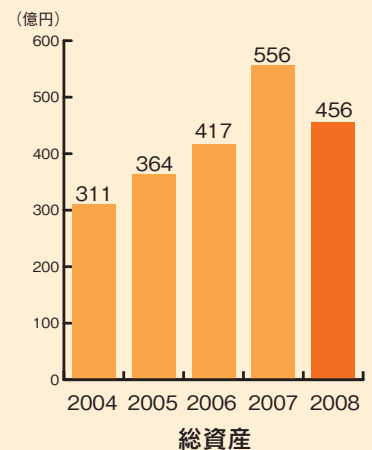
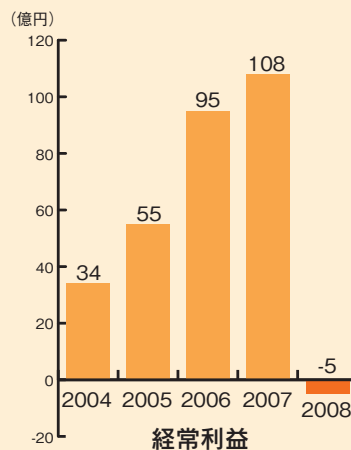
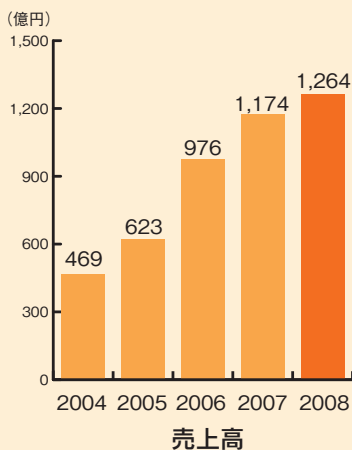
役員一覧：

代表取締役社長 寺山 満春
 取 締 役 武内 義勝
 取 締 役 東浦 知哉
 取 締 役 田辺 幸夫
 監 査 役 嶋崎 勝乗
 監 査 役 小林 貞五
 監 査 役 徳嶺 和彦
 監 査 役 有海 澈明

URL <http://www.asahiholdings.com>

(2009年4月1日現在)

●連結財務ハイライト



アサヒプリテック株式会社

●会社概要

事業内容: 貴金属・レアメタルリサイクル

代表者: 寺山 満春

本 社: 〒650-0001

兵庫県神戸市中央区加納町 4-4-17

ニッセイ三宮ビル 16F

〒100-0005

東京都千代田区丸の内 1-7-12

サピアタワー 11F

社員数 (連結): 928 名

<国内拠点>

研究所: テクノセンター

工場: 埼玉、尼崎、神戸、愛媛、福岡、北九州、北九州ひびき

リサイクルセンター: 埼玉、千葉、尼崎

営業所: 札幌、青森、仙台、新潟、北関東、関東、横浜、
甲府、静岡、名古屋、北陸、大阪、神戸、岡山、広島、四国、
福岡、北九州、鹿児島、沖縄

<海外拠点 (関係会社) >

Asahi G&S Sdn. Bhd. (マレーシア)

上海朝日浦力環境科技有限公司

韓国アサヒプリテック株式会社

URL <http://www.asahipretec.com>

(2009年4月1日現在)

ジャパンウェイスト株式会社

●会社概要

事業内容: 環境保全

(産業廃棄物処理およびその他の環境保全事業)

代表者: 武内 義勝

本 社: 〒650-0001

兵庫県神戸市中央区加納町 4-4-17

ニッセイ三宮ビル 16F

〒100-0005

東京都千代田区丸の内 1-7-12

サピアタワー 11F

社員数 (連結): 237 名

<関係会社>

日本ケミテック株式会社 (本社: 埼玉県川口市)

富士炉材株式会社 (本社: 東京都大田区)

株式会社三商 (本社: 神奈川県横浜市)

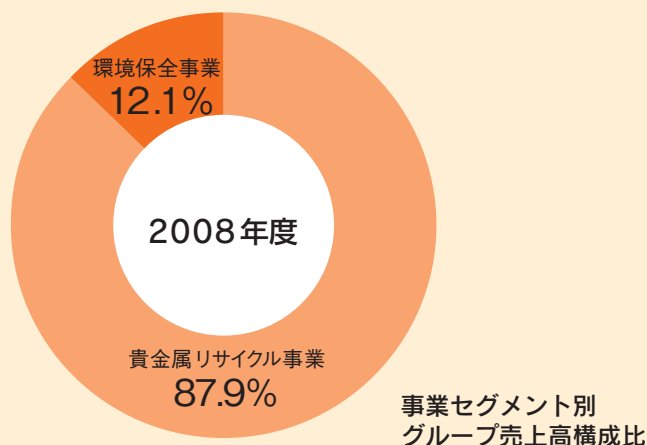
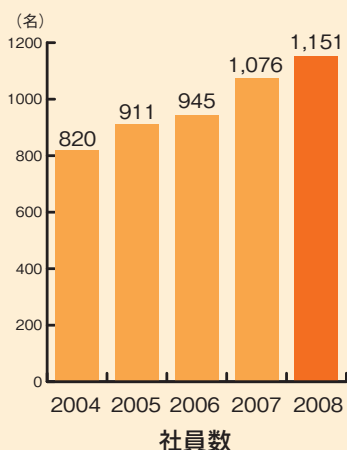
株式会社塩入建材 (長野県長野市)

株式会社イヨテック (兵庫県明石市)

株式会社太陽化学 (鹿児島県鹿児島市)

URL <http://www.japanwaste.co.jp>

(2009年4月1日現在)





事業紹介

貴金属リサイクル

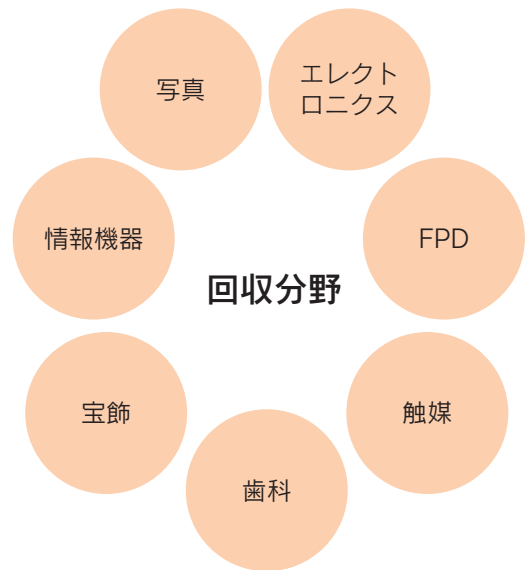
限りある資源を有効活用し、
地球と社会のために
貢献しています。

私たちはさまざまな分野から発生する貴金属・レアメタル含有スクラップを回収し、リサイクルしています。金・銀・パラジウム・プラチナ・インジウムなど現代のモノづくりに欠かせない貴金属・レアメタル製品として再生することにより、資源の有効活用と産業の発展に貢献しています。

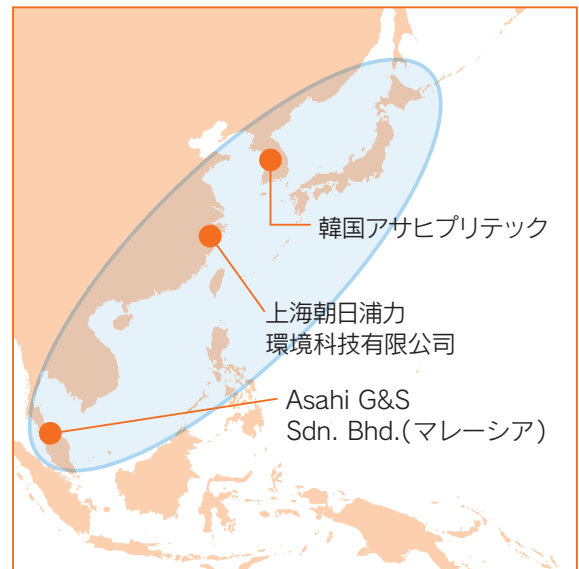
貴金属原材料の回収分野と地域は多岐にわたります。

貴金属原材料の回収分野はエレクトロニクス・FPD*・触媒・歯科・宝飾・情報機器・写真など多くの産業分野をカバーしています。

*：フラットパネルディスプレイの略



日本国内での回収に加え、海外においてもマレーシア・中国・韓国を拠点として、主に東アジア・東南アジア各国の生産現場から貴金属スクラップを回収しリサイクルを行っています。



高純度精製技術が国内外で高い評価を受けています。

アサヒプリテックは、(社)日本金地金流通協会の正会員として登録しており、海外においては金・銀についてLBMA (London Bullion Market Association) の審査に合格し、ブランド登録されています。また、プラチナ・パラジウムは世界市場の唯一の認定機関であるLPPM (London Platinum and Palladium Market) の認定登録を受け、その品質の高さは世界の市場で高い評価をいただいています。



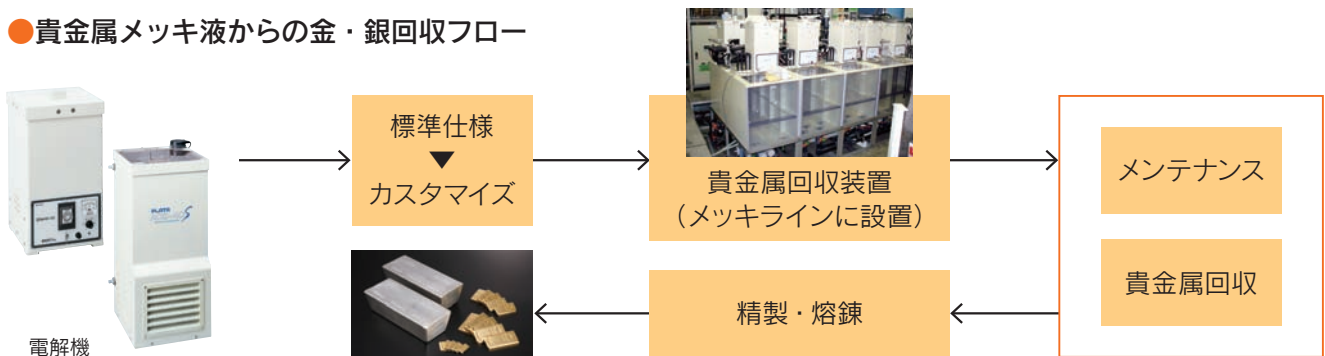
LBMA認定書

エレクトロニクス関連

電子材料分野では、パソコン、携帯電話などに使用される電子部品、プリント基板などの製造工程での、貴金属・レアメタルの回収やリサイクルのニーズに卓越した技術で対応しています。表面処理分野ではメッキ液に含まれる貴金属を中心としたリサイクル事業に取り組んできま

した。独自開発の電解式貴金属回収装置「ZIPANG」をはじめ、ユーザーの製造ラインに対応した多様な回収システムを提案しています。金、銀、パラジウムなどの貴金属回収に加え、レアメタルなどの再資源化や水処理再使用など環境に配慮した回収技術を合わせて提供します。

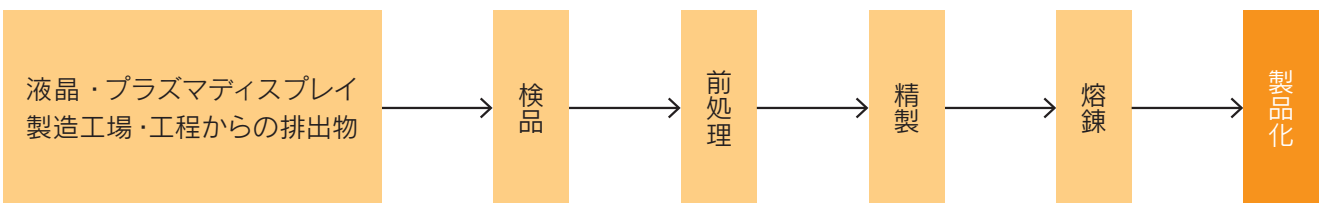
● 貴金属メッキ液からの金・銀回収フロー



FPD 関連

プラズマテレビ、液晶テレビなどに代表されるFPDの分野では、各々貴金属の銀、レアメタルのインジウムなどが使用されています。中期的にFPD市場は高い成長率を維持するといわれており、貴金属・レアメタルのリサイク

ルがますます重要なテーマとなっています。当社は独自の高度な技術により、これら貴金属・レアメタルのリサイクルに取り組んでいます。



触媒関連

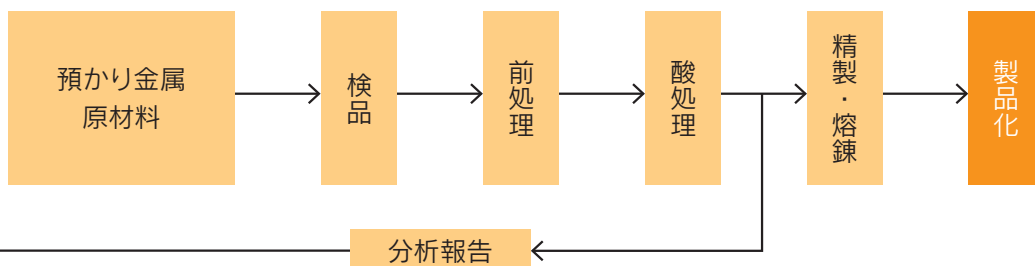
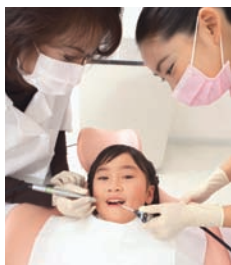
触媒分野では、大気汚染防止法、自動車分野におけるNOx・PM法など、排ガスに対する環境規制の高まりを受けて、自動車触媒として希少資源である白金族貴金属の使用が年々増加しています。当社は独自の技術ノウハウにより、自動車触媒、化学触媒などからの白金族貴金属のリサイクルに取り組んでいます。



自動車触媒

歯科関連

歯科医院や歯科技工所から排出される撤去冠・鑄造くずなどは貴重な貴金属資源です。当社独自の管理システムにより、工程ごとに二重三重のクロスチェックを行い、分析納期の短縮、分析数値の精度アップを実現します。



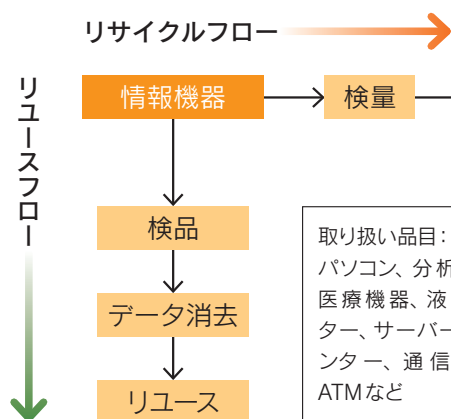
宝飾関連

宝飾品メーカーや加工所から発生するバフ粉、電解研磨液、削粉などから、徹底した個別管理と高度な分析・貴金属精製技術により高回収率を実現しています。また、宝飾品製造団体の「貴金属スクラップの回収・分析」において業務委託を受けており、当社の長年の実績に対してお取引先の皆様から厚い信頼をいただいております。

情報機器関連

全国のオフィス・工場・データセンターなどからパソコンをはじめとする情報機器などを回収し、徹底した素材分別を行うことにより、使用素材を再資源化し、環境負荷

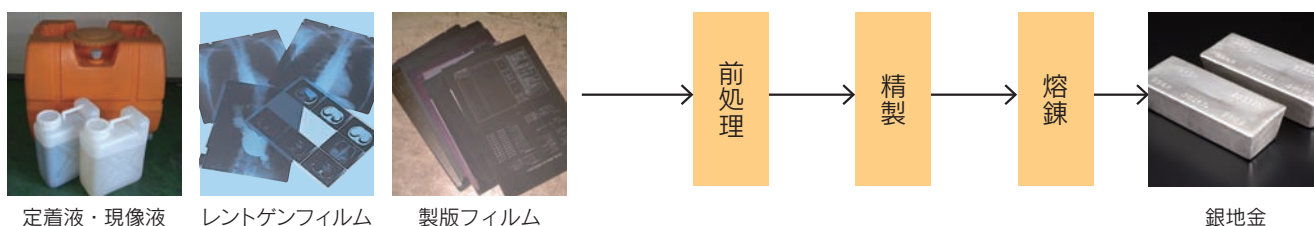
の低減を目指しています。HDD (情報記録媒体) を抜き取りデータを消去するなど、責任ある個人情報保護を実践しています。



写真関連

写真現像所、医療機関、印刷製版所などから排出される写真廃液、レントゲンフィルム、製版フィルムなどを回収し、銀のリサイクルと無害化処理を行っています。また、ミニラボから排出されるフィルムケース、パトローネ、

薬品ボトルは、ジャパンウェイストで圧縮、破碎処理後に素材原料として再利用するゼロエミッション・マテリアルリサイクルのルートを確認しています。



RESEARCH & DEVELOPMENT

技術の象徴 テクノセンター

「貴金属・レアメタルのリサイクル」と「産業廃棄物の無害化」に向けて、独自の研究開発と分析技術開発を進めてきました。その中枢が西神ハイテクパーク内に開設された「テクノセンター」です。開設10周年を迎え2008年9月に新棟を増築し、品質向上と技術革新を通じて社会に貢献する企業としてさらなる飛躍を目指します。



テクノセンターの主な機能

1. 研究開発

常に市場のニーズを先取りし、蓄積された要素技術の応用と新技術の開発を通じて、新製品、新事業の創生に努めています。

- ① 貴金属・レアメタルの分離・精製・分析技術
- ② 貴金属成形加工技術
- ③ 電気分解応用技術
- ④ 産業廃棄物の無害化・再資源化技術



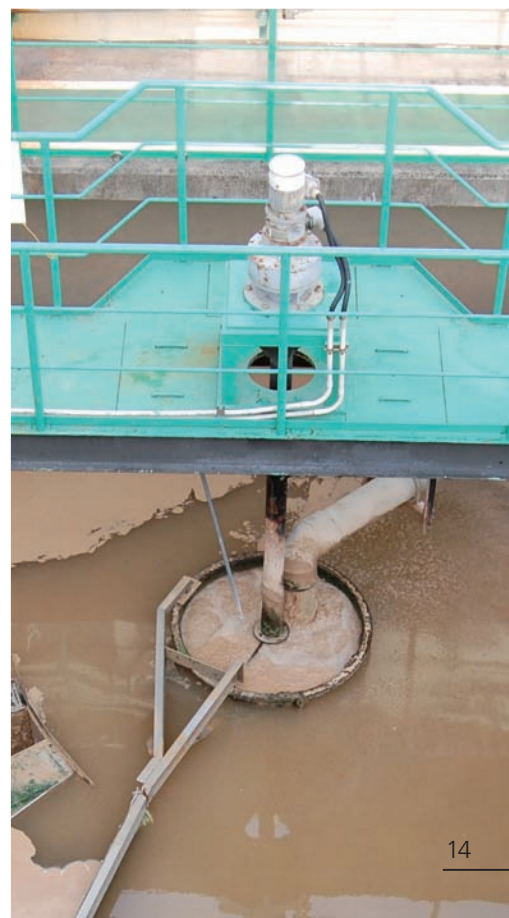
2. 分析

テクノセンターは、当社グループ分析機能の中枢として、最新分析機器と高度な分析技術で多岐にわたる企業活動を支援しています。また、お客様、お取引先の信頼を確実に保持し、高める役割を担っています。

- ① 新規分析技術の開発
- ② 各工場・営業所分析グループの技術指導
- ③ 貴金属製品や歯科用合金の純度分析
- ④ 工場排水などの環境分析
- ⑤ 計量証明登録事業所



高周波誘導結合プラズマ
質量分析計 (ICP-MS)



事業紹介

環境保全事業

廃棄物処理のエキスパートとして、
持続可能な循環型社会の
実現に取り組んでいます。

私たちは、各種廃棄物の無害化・適正処理を行い、地球環境問題の解決に貢献しています。グループ会社が長年それぞれの分野で培ってきた独自技術の提供を通して、お客様の多様なニーズにお応えします。

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物に関する トータルソリューションを提案します。

ジャパンウエストは産業廃棄物処理業として最大級の営業ネットワークを誇ります。全国に設置した営業拠点を中心に、きめ細かなサービスを実現しています。

当社グループの取得ライセンス

- 産業廃棄物収集運搬業許可 47都道府県 60政令市
- 産業廃棄物処分業許可 14道県 11政令市
- 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可 47都道府県 60政令市
- 特別管理産業廃棄物処分業許可 12道県 9政令市

(2009年3月31日現在)

幅広い分野で高付加価値サービスの提供に努めています。

各分野に特化した処理技術で、多様化・高度化するお客様のニーズに迅速にお応えします。



廃棄物のワンストップソリューションの実現を目指しています。

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物のほとんどの品目について収集運搬および中間処分の許可を取得し、適正かつ迅速に処理できる体制づくりをしています。さらに、

産業廃棄物の卓越した無害化処理技術とゼロエミッションの確立を進め、環境分野におけるグループ内ワンストップソリューションの実現を目指しています。



特定有害廃酸・廃アルカリ・汚泥処理

工場や事業所から排出される廃酸、廃アルカリや、大学・民間企業の実験研究所で不要になった廃試薬は、適正処理が必要です。これらの多品種にわたる廃棄物は、

徹底した安全管理体制のもと当社グループが長年培ってきた技術を駆使し、各工場専用ラインで適正に無害化処理をしています。

廃試薬類

廃試薬を1本ずつビニール袋で梱包し、混触防止を図っています。また、当社グループ独自の分類基準に沿って、容器に分別保管し、収集運搬、保管上の異常反応の防止措置を取っています。試薬瓶のラベルがはがれ、内容物が不明な廃試薬についても、当社が分析し、適正処理のサポートを行います。



廃酸・廃アルカリ・汚泥の高速微生物処理

廃液から有害物質を取り除いた後、窒素やリンを含んでいる場合でも、独自の技術と微生物処理によって無害化（排出基準値未満まで浄化）し、放流しています。特に、エネルギー消費、ならびに炭酸ガス排出量は、ほかのシステムと比較して低減化できます。

また、脱水後の汚泥（銅・鉄・亜鉛等の汚泥）は、資源化や土地造成資材として有効利用されています。一部リサイクルできない汚泥は、埋立処理をします。

有機性汚泥のリサイクル

食品製造工場、レストランチェーンなどから排出される食品系有機廃液や汚泥は、中和・脱水を行います。ろ液は微生物処理で無害化（排出基準値未満まで浄化）し下水放流します。汚泥は、発酵・熟成プラントで発酵堆肥化することにより農家の方々にリサイクル肥料として有効利用していただいています。

各種リサイクル

環境対策および、廃棄物処理に関して、お客様に最適なソリューションを提供しています。例えば、硝子製造炉、ごみ焼却炉など、炉の改修工事にともなって発生する廃耐火レンガやバグフィルター式集塵機の使用済ろ布の適正な処理が要求されています。改修工事、ろ布の交換工事の際に、廃棄物に含まれる有害物質（重金属類、ダイオキシン類）を分析し、精緻な分別を行い、耐火レンガや路盤材としての再利用を図るなど、高リサイクル率を意識した処理を行っています。

また、工場や工事現場から発生する各種混合廃棄物は、産業廃棄物の品目ごとに選別し、破碎、圧縮など適正な処分をした後、素材原料として再利用するルートを確認しています。例えば、廃プラスチック、金属スクラップ（鉄、銅、アルミニウムなど）の資源化、木材チップのカーボンニュートラル燃料化などがあります。

収集運搬においても、バンから大型ウイングトレーラーまでのさまざまな車両を駆使して、廃棄物の性状に合わせた運搬を行い、適切に処分します。

